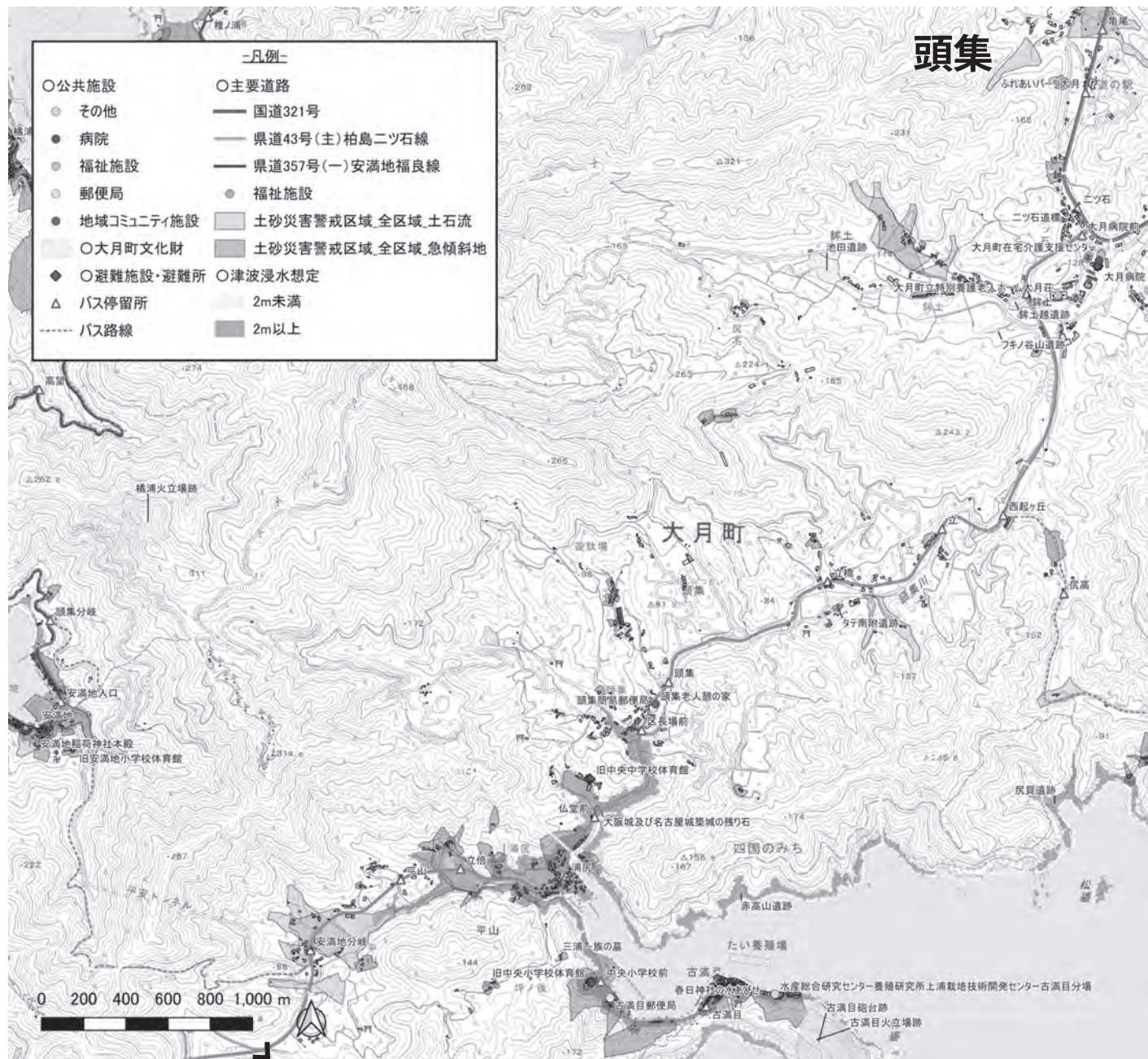




『事前復興まちづくり計画策定の流れ（予定）』

令和7年度以降も計画策定にあわせて、継続的に地区での話し合いの場を設けます。皆さまの意見をもとに、地区毎の復興まちづくり計画としてまとめていきます。
※以下は予定のため、今後変更になる可能性があります

	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
計画策定の取組	→			
有識者委員会等	▼	▼	▼	▼
地区での検討	第1回（今回） 地区の状況を共有する	第2回（仮） 復興目標を考える	第3回（仮） 土地利用を考える	第4回（仮） 地区での準備を考える
				パブリックコメント
				計画策定

お問い合わせ

大月町役場 総務課 危機管理室
〒788-0302 幡多郡大月町弘見 2230 番地
Tel：0880-73-1140 Fax：0880-73-1380

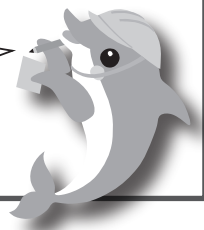


ホームページ



OTSUKI_JIZENFUKKO

大月町事前復興まちづくりの様子をホームページやインスタグラムで発信しています！ぜひフォローしてください！



大月町 事前復興 まちづくり かわら版

頭集

第1号

事前復興計画に向けた地区座談会を開催。
地区についてたくさんの意見がでました！

2024年12月1日（日）13:30～15:30、頭集憩いの家にて事前復興計画に向けた地区座談会を行いました。

地区座談会では、地区にお住まいの皆さまで改めて地区の状況を共有することを目的に、まずは、被災後も残していきたい「地区の強み・魅力」、復興まちづくりに併せて解消したい「地区の弱み・課題」を出し合いました。

その後、「地区の魅力を伸ばす」「地区の課題を解決する」ためのアイデアを出し合い、最後に「復興まちづくりの方向性」を話し合いました。

今回の結果を踏まえ、来年度以降も地区での話し合いの機会を設けていく予定ですので、今回ご都合がつかなかった方を含め、多くの皆さまのご参加をお待ちしています。



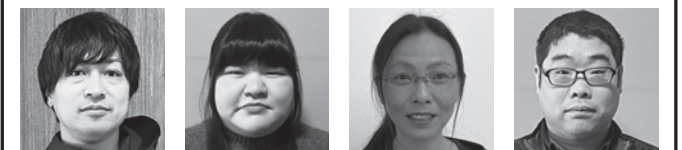
令和6年度から8年度まで事前復興の取組として、沿岸18地区の皆さまと話し合いを行います。

大月町は東日本大震災後から続けている避難路整備を始めとした町民の皆さまの命、生活を守り繋げる「防災」の取組と併せて、令和5年度より、災害が発生した際にどのように町や地域を復興するのかを予め考える「事前復興」の取組を開始しました。特に、南海トラフ地震による津波で被害の発生が危惧される沿岸18地区において、令和9年度の計画策定を目標に、令和6～8年度までの3年間、地域の皆さまと話し合いをしながら、地区別に復興の形を一緒に考えていきます。



大月町役場 頭集の担当職員の紹介

令和9年度の計画策定にむけ、4名の町職員が地区担当職員として地域での話し合いを支援します。



田中 大地 小島 阿未 田村 敦子 酒井 祐輔

頭集の担当になりました。よろしくお願いします！12月の初めに行った地区座談会ではたくさんの方に参加していただき、団結力の強さや頭集をさらに活気づけたいという気持ちを感じることができました。私たちも頭集の皆さんと協力して良い事前復興に繋がるよう頑張ります！

皆さまと話し合った内容を
2～4ページにまとめています。

自然環境が良い！

- 良さ
- ・魚介がおいしい
 - ・自然が豊かで食べ物がおいしい
 - ・海がきれい（水がきれい）
 - ・釣り客が多い

文化について

- 良さ
- ・祭りが年2回ある（夏祭り、秋祭り）（7月、10月の祭りの際掃除をしている）
 - ・祭りが続いている（音無神社）
- 課題
- ・地区の祭りがあったが担い手が減った
 - ・祭りの参加者が少ない
 - ・行事ができない

道路・公共交通のこと

- 課題
- ・道路の整備ができていない
 - ・街灯が少なく夜間危険
 - ・道路をもっときれいにしてほしい
 - ・旧中央中学校への道路の整備
 - ・町からの道路管理費の支援が減少した
 - ・バスが少ない（公共交通が少ない）
 - ・交通弱者が増えた
 - ・車の走行速度が速く危険
 - ・ガソリン代が高い
- アイデア
- ・乗り合いバスを整備する
 - ・停留所を増やす
 - ・バスだけでなく2、3人で利用できる乗り合いタクシーがあるとよい

暮らしのこと

- 良さ
- ・水道代が安い（昔から水源地がある）
 - ・近所づきあいが良い（仲が良い）
 - ・人間性が良い
 - ・共同作業ができる
 - ・各世帯の情報を把握している
- 課題
- ・報告、連絡、相談ができていない
 - ・現在はみな仕事が忙しく集まらなくなってしまった
 - ・コロナ後交流が減少した
 - ・高齢になり畑に降りるのが大変（ほうれん草を作るのが難しい）
 - ・ごみ出しに困る（ごみステーションが少ない）
 - ・買い物できるところがない（スーパー、コンビニなどがほしい）

- アイデア
- ・若者が集う場所を増やす
 - ・中学校のキャンプを利用する
 - ・月に1回程度食事をしながら話をする会をする（おいしいケーキ、ばら寿司、ビールなど）
 - ・国の補助金を続けてもらう
 - ・SNSなどで情報発信をする（魅力を伝える）
 - ・卓球台を使う（鍵を開けて使いやすいように）
 - ・移動販売を増やす
 - ・ゴミステーションを増やす
 - ・会社を誘致する



防災について

- 良さ
- ・発電機がある
 - ・内陸部に逃げやすい
 - ・食料の確保ができる（米、水など）
 - ・津波の心配が一部に限られる
- 課題
- ・避難場所に備蓄倉庫がない
 - ・避難場所が被害を受ける
 - ・大きい被災経験がないため経験不足
 - ・橋の耐震が心配
 - ・避難ルートの管理が困難
 - ・土砂災害が心配
 - ・溝の掃除が大変（雨が降ると水があふれる）
 - ・避難ルートに明かりがない（非常時の街灯がない）
- アイデア
- ・防災情報の共有をする
 - ・連絡体制をつくる
 - ・災害時のリーダーシップをとれるものを育成する（防災訓練などを通して）
 - ・米の備蓄倉庫、冷蔵庫を確保する
 - ・バッテリー、ソーラーの街灯を設置する
 - ・自立したエネルギー、電気
 - ・防災井戸の整備、浄水器の整備
 - ・山から水を引く
 - ・日ごろからガソリンを満タンにしておく
 - ・避難道の自主管理を行う
 - ・川面の補強
 - ・橋の耐震化をする
 - ・溝を拡張する



移住者を増やす

- 良さ
- ・貸し出しができる土地、農機具がある
 - ・貸し出せる空き家がある
- 課題
- ・少子高齢化（人口減少、限界集落）
 - ・町営住宅からすぐに出て行ってしまう
- アイデア
- ・移住者を増やす
 - ・会社を誘致する
 - ・農業や漁業などの仕事を増やす

まちづくりの方向性

- まちのコミュニティを大切にする
 - ・コミュニティの強化
 - ・積極的に話し合いができる場を設ける

●災害に備えたまちづくり

災害時に自分がすべき行動が分かるように様々なシナリオで訓練をする

- ・浸水の可能性がある世帯は防災計画を立てる
- ・憩いの家を開放しみんなが集まれるように環境整備をする（改修）
- ・避難所として中央中学校を活用する
- ・被災者を受ける体制づくりをする
- ・津波浸水区域の世帯を集団移転する
- ・橋で孤立してしまう地域から移転する

●人が集まる魅力あるまちづくり

- ・地区での出店活動
- ・若者を呼び込む
- ・魅力のある、他と違うことをする
- ・WSを定期的にする
- ・集会所をおしゃれにする
（内装ワークショップをする、宣伝する）
- ・グランピング、キャンプ施設を作る
- ・今のまま何も起こらなければいい